

あかしびと

クリスマス号 2014.12.25 発行
日本バプテスト同盟 金沢文庫教会



白根新治牧師 91 歳誕生日 2014.9.29



現在も牧師として活躍中

私の願い 白根新治牧師

今日まで主に支えられて参りました。
溢れる主の恵みにより、
私は現役であると叫びながら
生き抜きたい。

「わたしの魂よ、主をたたえよ。
主の御計らいを
何ひとつ忘れてはならない。」
詩編 103 : 2

目次

私の願い -----	白根新治 (牧師) -----	p. 1
特別な赤ちゃんの誕生 -----	白根義輝 -----	p. 2
人生とは? -----	中山将太郎 (医博) -	p. 3
神の子、イエス・キリストの福音のはじめ ---	澤野 寛 (牧師)-----	p. 4
人生の友達 -----	中山貞子 -----	p. 6
イエス様、共に居て下さり感謝です -----	中川澄子 -----	p. 6
眞由子先生のこと -----	井上美代子 -----	p. 7
雑 感 -----	梅谷興三 -----	p. 7
魔法の小石 -----	中山将太郎 -----	p. 9
傲慢、反省、祈り -----	犬塚志朗 -----	p. 9

特別な赤ちゃんの誕生 白根 義輝

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハネ3章16節

先生は、「赤ちゃん」という言葉を聞くだけで、にやっ、となってしまう。赤ちゃんは、独特な優しいミルクの臭いがします。赤ちゃんは、起きている時も、寝ている時も、泣いている時でも、可愛いな、と思います。

去年、日本だけで103万人の赤ちゃんが生まれたそうです。世界中では、なんと、1億44万人もの赤ちゃんが生まれました。1分間に、1, 2, 3と六十数える間に、266人生まれたこととなります。随分とたくさん生まれるものだな、と驚きました。

1年ぐらい前に、先生の隣の家の若い夫婦に、赤ちゃんが生まれました。日本でも世界でも、毎日毎日、たくさんの赤ちゃんが生まれています。その若いお父さんとお母さんにとっては、特別な赤ちゃんです。二人にとって、世界で1番可愛い、大切な赤ちゃんです。

同じように、今、横浜英和小学校には、333人の子どもがいますが、全員が、特別な赤ちゃんでした。みんながおぎゃー、と生まれた時、家族の人は、それはそれは嬉しかったことでしょう。

先生たちも赤ちゃんでした。赤ちゃんの時の校長先生の顔を思い浮かべるのはチョッと難しいですが、一体、どんな赤ちゃんだったんでしょうね。

また、私たちには、一人ひとり誕生日があります。英和小学校の中で1番早く生まれた人、1番上のお姉さん、もちろん6年生ですが、その人の誕生日は、4月2日です。また、1番遅く生まれた人、1番小さい人は、3月28日生まれの1年生です。それぞれ、自分の誕生日は、特別な日です。因みに、先生にとっての特別な日は、1月30日ですが、この中に、同じ誕生日の人が何人かいます。

さて、皆さんが生まれた時、お父さんやお母さん、家族の人たちは、どんなことを思ったのでしょうか。みんなは特別な赤ちゃんの一人です。大切な赤ちゃんですから、まずは、病気をしないで、すくすく元気に育ってほしい、バレリーナや野球選手になって欲しい、勉強ができるようになって欲しい、など、いろいろあるでしょうが、とにかく、赤ちゃんには、幸せな人生を送ってほしい、と願ったと思います。

先生の知っている赤ちゃんの中に、たった一人だけ、何と、生まれる前から十字架に架けられて殺されることが決まっていた赤ちゃんがいます。かわいそうです。かわいそう過ぎます。

その赤ちゃんのお誕生日は、今から2千年前の12月25日、特別な赤ちゃんの中でも、とっても特別な赤ちゃんでした。なぜならば、神様の赤ちゃんだからです。赤ちゃんは、イエスと名付けられました。

では、神様の赤ちゃんイエス様は、何のために生まれてきたのでしょうか。

それは、私たちの罪を赦して、私たちが一人残らず、神様の国、天国に行かれるように、その準備をするためです。私たちが、自分で悪いと知りながらやってしまったこと、また気が付かないうちにしてしまった悪いこと、神様のことを忘れて自分勝手に過ごしてしまったこと、これらを罪といいます。イエス様が全部赦して下さいるためです。こんな嬉しいことはありません。感謝なことです。

クリスマスは、神様の赤ちゃんイエス様の誕生をお祝いする時です。自分の幸せは何も望まないで、私たち一人ひとりのために生きてくださったイエス様の誕生を、今年も新しい気持ちでお祝いしたいと思います。

(全校礼拝児童説教より)



イエスの誕生 中山将太郎模写

「人生？」ポピュラーなテーマだけれど、これほど大事なものはない。しかし、案外なおざりにされている。

簡単に言えば

- ① 人生とは、生き抜くこと！幸・不幸に係らず、死ぬまで生きぬくこと！
- ② 人生とは、家を建てるようなもの。

即ち、人生で原材料を使って、どんな家を建てるかは、金を出す家主が決める。建築屋(周囲の者)はその意向にそうて、手伝って建てるだけ。原材料とは、遺伝、環境などである。

でも、人生、どんなに偉そうなことを言っても、「運」はつきまとう。運とは読んで字の如く、運ぶもの。誰が？ 自分が自分のために運ぶ。周りの人は、手伝ってくれるだけ。

だから、いかなる人の人生も、各自の責任において各々に厳しくなる。故に、徳川家康は「人生とは、一人の人が重荷を負うて、遠き道に行くが如し」といった。故に、あくまで、自分の責任で、自分の荷を負うしかない。他人のことより、自分のことを心配せよ、ということだ。

でも、物理学大家、アドラーは「世界と人生は、シンプルだ！あまり難しく考えるな！」といった。

しかし、現実的に人々の人生に悩みは多く、ひどい時には、自ら命を断つことがある。

事実上、人間にとり、人生ほど厄介なものはない。でも、冷静に考えてみると、他人と過去は変えられないが、自分の人生と未来は変えられる。これが救いである。

方法は、過去を忘れ、未来に目を向けるだけ。即ち、目にかけて色眼鏡を換えるだけ。ブルーの眼鏡をピンクに換えれば、世はブルーからピンクに変わる。



とにかく、人間は誰も劣等感をもつ。問題は？ そこで躓くか、それをバネにして立ち上がるかで、人生は違ったものになる。劣等感と劣等コンプレックスは違う。劣等感は仕方がないが、劣等コンプレックスは良くない。劣等コンプレックスは自分でくじけてしまい、自分の人生をだめにする。何でも環境と条件の悪さにして、努力を怠るから。

しかし、逆に優越感をもつ人がいて、これは、劣等感の裏返しであってはいけない。時に、世話好きで、お節介焼きの好きな人がいて、これは、相手を自分に依存させ、優越感に浸る場合があるが、これも良くない。

私は、若い時、逆境にさいなまれ、人生に行き詰まり、哲学書をあさった。特にストア哲学は、今で

も大好きである。新約の使徒行伝にも、この哲学が出てくる。

即ち、人生で、あるトラブルに出くわした時、これを先ず二つの部分に分ける。一つは、自分がベストを尽くして取り組むべきで、別のは自分の力では、どう仕様にもならない部分であり、ストア主義者は、これはほったらかしにせよという。

しかし、このどう仕様にもならない部分を、キリスト教は、イエス・キリストにお任せせよという。その担保は、十字架で裂かれたイエスの肉と血である。そのため、私たちは、今でも聖餐式でパン(イエスの肉)と葡萄酒(イエスの血)をいただく。

とにかく、人の感情と行動には、目的がある。それは、相手を操作したり、自分を奮い立たせたりする。しかしこれは車のガソリンと同じく、ガソリンは利用すべきもので、それに支配されてはいけない。

私たち人間の共通した特徴は、生きている限り誰でも不安がつきまとう。不安を克服しないと臆病風が吹き荒れ、さいなまれる。

しかしこんな時、不安から逃れるのではなく、勇気を出し、「イエスよ、我を守り給え！」と念じ、不安の中に飛び込むことである。これを繰り返して自分の性格となし、生涯力になる。

しかし、私たちは、往々にして古典的観念に呪縛され、「性格」(ライフ・スタイル)は、換えられないという。この呪縛から、先ず解放されなければならない。

「性格」(キャラクター、ライフ・スタイル)は、10歳までにほぼ完成する。それから成長して大人になるが、度々自分で修正をくり返しながら進歩しなければいけない。進歩なければ、退歩あるのみで、そこで留まって動かないのではない。

では、何で、こんなややこしい自分の性格、ライフ・スタイルに対処しなければいけないのか？考えてみるに、人生とは、自分の過去生を通して、自分で取捨(選び取るか捨てるか)してきたのである。こんな取捨の積み重ねで、他人のせいにはしてはいけない。自分で不安になろうとして、不安になり、目を重ねて悪化して、鬱(ウツ)になる。「ウツ」とか「ボケ」は、今日の精神科医のドル箱になっており、彼らを金持ちにならせないよう注意しなければならない。

自分の人生は、過去生を通して、自分一人で取捨してきた。自分一人で決めてきたのだから、自分で変えるしかない。私自身をマナ板の上に載せて、ご参考までに恥をさらすが、私は過去に自信が有り過ぎ、短気で怒り易く自分なりに苦しんできた。

しかし、人生も黄昏に近づき、怒りの感情は使わ

なくなった。本当に、使うのさえ、しんどいと思うようになった。

イエスの十字架に、共につけられて、怒るエネルギーが本当に減少した。願わくば、このエネルギーが徐々に喜びと感謝のエネルギーに変換せんことを願う。故に喜びと感謝の書ともいえる「ピリピ書」が大好きである。

別の言でいえば、人生のほとんどの悩みは最終的に人間関係に行きつく。昔、ある世捨て人が村を捨て、山の上に、一人で仙人のように住んだ。しかし、眼下に村を見渡せる程度にして。ところがある日、村全体が火事で焼かれてしまい、村人は別の山の麓に移り住んだ。そしたら、その世捨て人は、また、新しい村が見える山に移り住んだ。

とにかく、人間は社会動物で、一人では生きられない。人間、動を嫌って、静を好み求めても、完全に動きから切り離れることはできない。私たちの凡ゆる感情と言動には、「相手」という対象が必要である。彼らの息遣い、体臭を感じる程度の距離が欲しいだけである。人間は、あくまで「自己中」で、自己中毒に陥っている、美名化した社会動物と言える。

ならば、このような人と人を結ぶ絆はないのか？あるとすれば、愛という絆、あるいは、接着剤しかない。

ただ、条件として、お互い適切な間隔はとっておきたい。ちょうど富士山は、間近より少し距離を置いて眺めた方が美しいではないか？

このような愛の人間関係を保つ基本は、信頼関係である。信用ではない。信用に犠牲を伴う時、初めて信頼関係が成り立つ。

さて、古今東西、このような信頼関係の最高の保証は、イエスの十字架に於いてのみ成立する。故に私たちは、自分がクリスチャンになることを赦され

た幸いに感謝する。

有名な神学者ラインホルド・ニーバーは、毎日祈った。「神よ、私に変えられるものを変える勇気と、変えられないものを受け入れる忍耐力と、両者の違いを理解する知恵をお与えください！」と。このような勇気、忍耐、知恵という三つの武器を手にして、私たちは天路歷程、天国目指して進むのみである。

結論として、人生は複雑怪奇なものではなく、極めてシンプルであり、私たちを導く足下の燈火はイエスの一生と十字架と復活である。このために私たちは、教会という学校に来て、聖書という教科書から学び、説教を聞くのである。とにかく、新約時代に生きる私たちにとり、世界はシンプルであり、救いもシンプルである！



逃避行 中山将太郎模写

神の子、イエス・キリストの福音のはじめ 澤野 寛 (牧師)

昨年41年間仕えてきた高槻バプテスト教会を辞して、1年半が経過しました。主任牧師としての業を終えたとはいえ、少しでも主の御用に携わりたいと願っていましたが、4教会で定期的に御言葉の解き明かしのご奉仕に与らせていただき感謝です。金沢文庫教会では月2回聖日礼拝説教をさせていただいていますが、教会の姉妹は本当に熱心に耳を傾けて下さり、御言葉を真剣に受け止めようとされる有様には、白根先生のこれまでの素晴らしい牧会的働きを感じさせられます。私はマルコ福音書の連続講解を礼拝説教としており、毎回説教要点を書き、

皆様にお渡ししております。この御教会の機関紙である「あかしびと」には、以下第一回目の説教要点を転用させていただきます。

新約聖書の福音書は、いうまでもありませんが、主イエス・キリストの言行を記した書です。「福音書」の「福音」（英語ではゴスペル）は原語では「ユアングリオン」です。私共はこの語が、「良き知らせ」「喜びの使信」という意味であることを良く知っております。しかし言語学的にはユアングリオンという語は古代ギリシャにおいてはあまり用いられることがなく、新約聖書において、その信仰の核心

的用語として用いられることによって流布した言葉だそうです。聖書用語が一般化した典型であると言えます。いずれにせよ「福音書」は、その名称通り、「福音」(良き知らせ、喜びの使信)をもたらす書物なのです。

マルコ福音書は新約聖書四つの福音書の中で一番古いものです(学者によって著作年代が異なるがAD64~72年に書かれたもの)。マタイ福音書、ルカ福音書と共に「共観福音書」と呼ばれています。「共観」という語はシノプテック(「一緒に見る」という意)から由来したので、これら三福音書は共通する記述が多く、同じような表現もみられ、一緒に読んだら理解しやすい故に、共観福音書と呼ばれるようになったのです。

多くの新約聖書学者はマタイ福音書とルカ福音書は先に伝承として存在していたマルコ福音書を用いて、自分独自の福音書を編集していったのであると理解しています。さらに、福音書成立に関して記すなら、福音書以前に「主イエスの言葉」(Q資料と呼ばれている)というものがあつたと想定し、各福音書はこのQ資料をも引用付加しながら自分の福音書を書いたとの仮説を立てています。

現今私たちが手にしている福音書にも、その成立に至る歴史がありますが、なによりも各々の福音書著者又は編集者は主イエス・キリストに対する真実なる告白として、又これこそが人間にとって真の「福音」なのであるということの証言としてこれを記し、編纂したのです。

ある説教者は、この「福音書」という名称に注目しながら、「私共が福音書を本当に、正しく読んだか否かの決め手になるのは、この書の言葉のどこを読んでも、そこに喜びがみつかったかということです。福音が聞こえたかということです。神の恵みがみえたかということです」(加藤常昭著「マルコ福音書説教I p 23)と指摘しています。

マルコ福音書の著者マルコという人物については新約聖書の中に数カ所その名が出てきます。彼は、エルサレムの上流階級の婦人マリヤと呼ばれている女性の息子で、その家がエルサレム教会の集会所(言行録12:12)でした。学者の中には、最後の晩餐もこのマルコの家で行われたと考える人もおります。また、彼はバルナバの甥であり、パウロとバルナバが第一回伝道旅行に出かけたときに、同伴者としてついて行きました(言行録12:25)。しかしその最初の伝道旅行中に何らかの理由で脱落し、一人先に帰ってしまったため、パウロの信用を失ってしまい、第二回伝道旅行には参加することが出来ませんでした(言行録15:37~40)。その後伝説によるとエジプトに下り、アレキサンドリアで教会を建てたといわれております。パウロがローマの牢獄の中からコロ

サイ人への手紙を書いた時にはマルコも共におり(コロサイ4:10)、同じ獄中書簡であるピレモンへの手紙では、同労者と呼ばれています(ピレモン24)。かつてパウロの信用を失墜したマルコも、やがてパウロの信頼を回復し、同労者として獄中のパウロを助けたのです。このマルコ福音書はこのローマで書かれたものだという説があります。さらにマルコのこと、特筆されるべきことは彼が使徒ペテロの通訳者ではなかったかということです。ある学者はこのマルコはペテロの説教をいつも傍らで聞き、記憶し、それに基づいて後に自らの筆でこの福音書を書き残したのであると考えています。このように、パウロの同労者であり、ペテロの通訳者であったかもしれないマルコこそ、まさに最初の福音書の著者にふさわしい人物であるといえます。

彼の最期がどうなったかはわかりません。恐らくパウロやペテロと同じ殉教の道を通ったのではないかと思います。もしこの書がローマで書かれたとするなら、少なくとも殉教の危機の中で命がけで書き残したものであるということになります。

このようなこの書が記された背景等のことを考え合わせながら1章1節を読んでみますと、たった1節だけの中にも大変な重みを感じさせられます。

原文では「はじめ」という言葉が文頭に置かれています。ヨハネ福音書でも「はじめに言があつた。・・・」と「はじめ」という言葉が文頭の語です。ヨハネは明らかに創世記一章1節を彷彿しながら、「はじめに・・・」と記したのでありましょう。マルコもそうであつたかどうかは不確かです。しかしマルコがまず「はじめ」と語ったのは、創世記やヨハネと同様に単に時間的なはじめというより、すべてのことがらの根源としての「始原(はじめ)」を言い表わそうとしたのではないのでしょうか。「根本的に、根源的に」ということです。私共の目に見える現実がいかなるものであれ、いかなることが起ころうと、そもそも根本的に「福音がある。ここに神の子イエス・キリストの福音がある」ということです。

前述で殉教について記しましたが、キリスト教会がローマ時代に又後の時代に迫害を受けた理由は、このマルコ福音書一章一節に記されているような告白をなしたが故です。主イエスが地上に生き給うた時より300年前にアレキサンダー大王が登場し、世界を制覇しました。彼は「神の子」と呼ばれ、そう呼ばれることを好んだのです。その後ローマ皇帝達は自分こそが「神の子」とであると豪語し、人々にそのように呼ぶことを強要したのです。どの時代にも権力者達は自分こそ「神の子」とし、神的存在として崇拜されることで、民を支配したのです。当時希有の用語であつた福音を現す「ユアンゲリオン」と

いう原語も皇帝に王子が生まれた時、又は王子が王位に就くときの喜びを伝える使信に用いられたそうです。皇帝が民にその喜びを強要したのです。

そういった状況の中で、マルコが「神の子、イエス・キリストの福音のはじめ」と記したということは「私たちにとっては、決してローマ皇帝が王であり、神の子であるということではありません。それが私共の喜びではないのです。そもそも、ただ主イエス・キリストだけが真の王であり、神の子であり、そのように根本的に主イエスが王であり、神の子で

あるということこそが私共の根源的な喜びなのです」(同 19p)と命がけで告白し、宣言したことを意味するのです。

2013年7月7日礼拝説教要点



人生の友だち 中山 貞子

親族、親友をあの世にお送りするのは辛いことです。昨年春、兄と兄嫁を立て続けに、心疾患で亡くしました。火葬場で白骨化した「残骸」を目前にし、改めて生と死の儚さを思い、感無量でした。

よく親族親友の死で、自分の将来の「ある日」を連想して、悲しみを深めているのは否めません。

一人の人の死は、後世に遺す一種の遺産



です。如何に死んだかは、いかに生きたのかの総決算だからです。とくに、老人は死に際し、後に続く活動的な若き世代を妬まず、祝福することができれば幸いです。

それには、天路歷程の過程で、イエス様が共に歩んで下さることが最高です。イエス様と共に歩む人生を選んだ人は幸いです。



イエス様、ともに居て下さり感謝です。 中川 澄子

自覚症状が全くない私は、悪性リンパ腫(血液の癌)の告知を受けました。18年前のことです。それから検査・治療・検査・治療・再発・再々発・再々々発の繰り返しの9年間を過ごしました。その間、教会の皆様の熱いお祈り・病院のスタッフ・友人・知人・家族の大きな愛とファイトをいただきました。神様がお一人お一人に働いて私に接し、支え続け下さっていました。大きな喜びでした。イエス様も常に私のそばに居て下さり、苦しみを背負い、私よりたくさんのお祈りをしていたらと思います。安心と感謝の日々でした。



その後の9年間は体調に恵まれ、心豊かに過ごしました。が、昨年秋ごろより腫瘍マーカーがぐんぐん上昇、春にペットCTの診断結果を医師は言う。「再発、眠っていたのが起きちゃったのかな」と、小さな声で言いながら画像の肺のあたりを指さし

た。私は言う、「熊みたいに冬眠していたのですか？眠っていて起きなければいいのに」と。そう言いながら、元気だった9年間を感謝と気づき、医師にも感謝を伝え、帰りにお祈りをしました。悪性リンパ腫は完治することはない、寛解(病気そのものは完全に治癒しないが、症状が一時的あるいは永続的に軽減すること、特に血液の病などの場合に寛解と言う)というのを忘れていました。今回のことで寛解の意味を思い出しました。これからは神様からいただいた体をもっと大事にして日々過ごしたいと思いました。感謝です。

半年が経過して今回の、ペットCTの診断結果は？感謝です。消えていました。寛解です。感謝です。腫瘍マーカーの数値はまだ高いのですが、いずれ下がると思います。祈りつつ待ちます。現在痛いところ、苦しいところはありません。感謝です。

幼い日から主イエスにつながり、神様につながり

たくさんの平安をいつもいただいています。病の中にもベッドの上に居ても、どこにいても、場



所・時間の制限もなく自分の言葉で心そのままにお祈りができることは素晴らしい恵みであることを感じます。

神様、寛解を感謝です。感謝です。

真由子先生のこと

真由子先生は医学部の歯科を出ていらっしゃるらしいです。そして西笠井の住いの近く、金丸歯科医院に勤めていらっしゃる女性の歯医者さんでございます。出身地は浜松で、お父様もお母様も歯医者さんで、弟さんもこれまた歯医者さんでございます。当お父様の御兄弟の皆様も内科・外科の先生方で皆お偉い先生方ばかりで驚いております。その真由子先生が今年の六月二九日、横浜のインター・コンチネンタルといか言ふホテルで、上の孫の慶一郎と結婚式を挙げたのでございます。その結婚式が盛大で、山形のお医者さんや、こちらの歯科の先生方等総勢百人以上ある結婚式だったそうでございます。どうしてそんな事になったのかなあ〜。



私の様な無学無知の人間のいる家庭に嫁入り

不思議でなりません。そしていろいろ考えておりますと、ああ、神様は私の六十年間の信仰の御褒美にと真由子先生を私にくださったのではないだらうかと思へる様になりました。



あなたに選ばれ
あなたに近づけられて
あなたの大庭に住むものは幸いである

と詩編の御言葉通り、ただひたすら神を追い求めて参りました私への神様の御褒美かも知れないと、そうであるなら頂戴した真由子先生を大切に、大切に

井上美代子

御守りして差し上げるのが私の務めだと思へる様になりました。

そして振り返ってその真由子先生の主人になります孫の慶一郎は高校の時に、白根先生より受洗の栄誉に与っております。

その時私は思ひました。ひょっとして慶一郎は神様の事が判っていないのではないだらうかと、、、でもその時思ひました。今は神様の事が判ってゐなくても一生をかけて神様がいらっしゃる事が判ってくれたらそれでいいと。そして慶一郎が五十歳になった時、これから出会ふでありませういろんなことを通して、そして今年の六月二九日の結婚式を含めて、自分は大きな大きな神様の御愛の中に生かされてゐるのだと言ふことが判ってくれたらいいと思ひます。そうなります為に、残りわずかになりました私の日々を

「あなたも、あなたの家族も救はれます」と言ふ御言葉を信じ、祈りの道に邁進したいと願って居ります。文庫教会の皆様、よろしく願ひ致します。



雑 . 感 梅谷興三

「あかしびと」へ寄稿するとなれば、果たしてこれが証しになるのか心配となりますが、自分なりに現在考えていることを述べてみることにします。

若い頃、兵庫県明石市の高校生時代、西洋古代史

の時間に、先生から、ギリシャ思想（ヘレニズム）とヘブライ思想（ヘブライズム）について話されたことがありました。そのとき質問したことを契機に、それを聞いていたクラスメイトと話が合い友人と

なりました。彼は明石海峡の向こう岸、淡路島の北端の町、岩屋から学校へ通っていましたが、牧師の息子でした。それ以来細々ながら交友が続いています。彼は卒業後、神戸の神学校へ行きました。当時神学校でも学生運動が始まり、あまり勉強できなかったらしい。それでも父のあとをついで、岩屋教会の牧師になり今に至っています。成田空港問題や関西空港問題でも積極的に反対運動に参加していました。

ところで上記のギリシャ思想とヘブライ思想の問題ですが、それはギリシャの合理的思想とユダヤの宗教思想ともいえるものだと思います。ヨーロッパの小説、思想、哲学などは現代に至るまで、これらの二大潮流と何らかの関係があります。そしてこの二つの流れは一見水と油の関係にあるようですが、互いに影響を与えながら、ときに反発し、あるいは妥協し、融け合って成長してきたとも言えます。

ギリシャ思想はアレクサンドロス大王のマケドニアからエジプト、シリア島へ波及、プラトン主義は教父アウグスティヌスに影響を与えています。

ヘブライ思想といえば、旧約聖書に伝承されたヘブライ人の思想であり、ユダヤ教、キリスト教の思想の源泉とされます。キリスト教はこれと新約聖書とともに正典としていますが、ユダヤ教はそうではありません。救世主と認めていないからです。ではキリスト教は何故旧約を正典としているのかと言えば、その中にキリストの出現を預言しているからです。(イザヤ書) イスラム教も一神教で同じ系列ですが、イエスは預言者の一人ではあっても神の子とは認めていません。マホメットを創始者としコーランを正典としているが、単なる個人の宗教ではなく政治的色彩の強いものであり、ここに、現代の深刻な問題が存在します。

私は聖書に接してから大分年月が経っています。会社生活ではほとんど聖書は読まず、教会にもゆきませんでした。中学、高校時代の数年間が一番熱心だったような気がします。大学時代にYMCAの学生寮(地塩寮)に居ましたが、外はマルキシズム——唯物弁証法理論に基づく——の嵐が吹き荒れ、キリスト教会もその例外ではなく、赤岩栄という上原教会の牧師が共産党に入党するということが起こりました。多くの学者も左傾の傾向にありました。でも指導者の熱心さは認めても、考えは固定的でついていけないものがありました。だからといって教会に戻っても朝鮮動乱の火がまだ消えていないときでしたが、時代感覚に乏しく宙に浮いた様な説教としか受け取れませんでした。就職してから40年間は放浪の旅に出たようなものでした。そして10

年ほど前から金沢文庫教会にお世話になり、現在に至っています。

ところで、聖書、特に新約聖書は漠然とイエスの伝記くらいに考えていたふしがあります。説教もその中のごく一部分一節について関連して詳しく話されることが多いのです。それはそれで意味がなくなっているのですが、ときに森の中に迷うような気がしています。しかもその大半には奇蹟が書かれているのです。これは古代人は奇蹟を期待していたからなのかもしれません。

聖書逐語靈感説というのがあります。聖書に書かれていることは靈感に導かれているのだから、逐一絶対に誤りがないというものです。新約聖書も約2000年前に口頭で伝承されたものであるならば、この説は承認しがたい。聖書の書かれた順番も今の配列通りではない。更にローマ書の信仰とヤコブ書のそれとは全く違うように見えます。ヤコブ書では実行を伴わない信仰は意味がないと言っており、福音書でも実を結ばない木のものであると言っているからです。ローマ書を書いたとするパウロはユダヤ教のがんじからめ律法主義、例えば割礼という行為にとらわれず、信仰により、異邦人でも救われる。というところに力点があったんだと思います。

聖句はいずれにしてもその後ろにある時代背景から私どもが生きている現代にひきなおして理解しなければ真理は見えてこないのではないかと考えています。少なくとも一般の日本人にはわかりにくいもののように考えます。

日本ではキリスト教徒が1%といわれて久しいのですがこれをどうとらえるべきでしょうか。

韓国では2005年の時点で30%とのこと。それはあたかもイスラエル民族が、バビロン虜囚で苦難の道を歩いたように、日本から受けた、政治的、宗教的な屈辱をはじめ、国土を無理やり二分された悲劇などの影響があると思われまふ。日本は明治初期や第二次大戦直後と違い、高度成長のあと物質的には豊かになりました。平和ぼけに乗じて秘密法の制定や集団的自衛権の行使の閣議決定という動きになりました。衰退の原因の一つには日本のキリスト教は以前より、社会性が希薄になったのではないかと意見もあります。毎日起こる殺人事件、家庭内暴力、教育問題、これらには夢をなくした若者の姿があらわれています。先進国病の一つかもしれません。とにかく国情は違いますが、私どもは原点に立ち返って、大局的に考えてみる時が来ていると思われまふ。教会についても教会員は転勤などにより、

いろいろな教派の人から成り立っているのが実情です。バプテスト同盟はかなり各教会の独自性を認めています。教派の壁を少しずつでも低くしていくことも大切だと思います。

先日文庫教会から牧師以下7人ばかりで神学校へ出かける機会が与えられました

「門を叩け、さらば開かれん」ことを願うこと切であります。



魔法の小石

中山将太郎 (医博)

アメリカで「魔法の小石」(Magic Pebbles)という童話がある。

ある男が、旅の途中で、神々しい光に包まれ、神の声を聞いた。「道端の小石を拾って、カバンに詰め、旅をせよ。」……「そしたら目的地に着き、喜びと悲しみ両方を味わうことになる！」で、神の声は終わった。

男は不審に思いながら小石を拾って、カバンに詰め、歩いた。目的地について、カバンを開けて見たら、石ころが全部ダイヤモンドに変わっていた。

男は喜んだ。大金持ちになったからだ。しかし同時に悲しんだ。もっと多く石を詰めておけばよかったと後悔して悲しんだ。トルストイの最終的に六尺四方の墓場になる土地を得た欲張りの男の話に似て

いる。

しかしこれが人生である。私たちは人生という天路歷程の中で、カバンにダイヤになるとは知らない知恵袋の中に小石をつめる。多く詰めても、少なく詰めても後悔する。

目的地に着き、もう一度やり直そうとしても運命の間屋は降ろしてくれない。これが人生だ！さあ、君ならどうする？まだ生きていて、この話を聞いたのだから、今でも石を詰め直すことはできる。さあ、どう詰めるか、それが問題だ。



傲慢、反省、祈り

犬塚志朗

古希を迎えました。その6か月前自動二輪車(小型)の免許をとり新車を買いました。それで今でも国道160kmの道程を走ることがよくあります。

危険極まりなく、途中交通事故の残骸や、車に撥ねられた動物の悲惨な屍骸をよく見かけます。だから小心者の私は、先ず出発時に、神様の御護りの祈りをささげます。そして道中も時折祈りを口ずさみながら——格好良くいえば神様との対話(のつもり)、「今しばらくは好きなように自分勝手に生活をさせて頂いてますが、私の生命をまだ奪わないで下さい……」との祈りをしながら——とぼしていきます。

ところが、冬到来の予感がする晩秋に、たまたま太陽が燦燦と輝く暖かな小春日和の爽やかさに誘われて、国道51号線を走りました。ビュンビュン飛ばすトラックやダンプカーに負けじと……、また、渋

滞中は止まっている車の横をサアッと抜けて追い越し、心浮き浮き、慢心の気持ちで鼻唄混じり、神様の御加護の祈りはすっかり忘れ、風を切って、すっ飛ばしていました。その時突然、私の2輪車ががたがたゆれ始めました。初めのうちは地震かなと思いましたが、ハッと気がついてゾッとしました。パンクしたのです。自宅から200kmほど離れて、全くの未知の場所、過去十数年パンクの経験はしたことがないし、今回は新車を購入したばかりで、パンクするなんて夢にも思っていなく、ロードサービスの知識はなかったし、で、過疎の田舎の国道ではどうしようもなく、途方にくれて右往左往……。眼の前は真っ暗になりました。



(その後地元の人々の援助の手が差し伸べられまし

た。32kmのレッカー代はなんと只。請求されたのはパンク修理代だけで1,000円のみ！ 横浜、横須賀ではパンク修理が1,500円、レッカー代は34,900円はするはずなのに・・・)

大反省をして、これを機に、あらゆる面での傲慢な生活を反省し、初心に帰って、謙虚に御加護を祈り求め、感謝の気持ちで静かに生活をしていくことに決めました。



説教者を囲んで交わりの会

いわゆるご利益宗教ではないことを承知していますが、祈りに応えられるのを信じていく幸いを、皆様もよくご存じと思います。この世で生活をしていく中、行き詰ってどうしようもなく、生きる望みを失ってしまうような出来事に直面することがありますが、そのような時、祈り求めることを知っている人は幸せだと思います。



フラワーデザイン
「クリスマス」大井法子作



松田みちよ画



老いて改めて知る神の恵み 松田みちよ

神が作り出す私という人間形成を思う時、幼いときより見守り導き、必要なことをすべて与え育てて、今尚『生かされている不思議さ』、誰にも与えられている神様からの贈り物・生命を大切に。これから自分の持てるものをお返し出来る様になれたらいいなあーとっております。

あかしびと クリスマス号

発行日 2014年12月25日
発行所 日本バプテスト同盟金沢文庫教会
住所 横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20
〒236-0046 ☎045-783-5475

発行者 (牧師) 白根新治
印刷所 品川文化堂
住所 横須賀市大滝町 1-9
〒238-0008 ☎046-823-1848